



# TCU ダイバーシティ通信

共に学び、共に働き、共に築く

vol.14



- p.1 SC ランチ交流会の実施報告
- p.2 留学生向けお茶会・座談会の報告
- p.4 進路選択応援プログラムの活動報告
- p.5 SOGI 理解度チェックの結果報告
- p.9 アンコンシャス・バイアスチェックリストの結果報告／Topics
- p.14 コラム「窓」

※見出しをクリックすると該当ページに移動します



## 次世代育成 Pj. SC「ランチ交流会」を開催しました

～「わたしが歩んだキャリアパス」 理工学部機械システム工学科 関口和真先生 ～

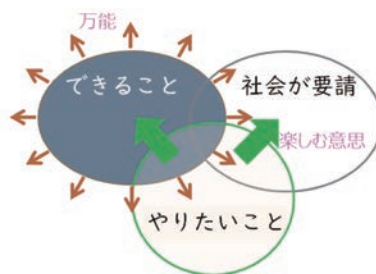
在学生がキャリアパスを考えるためのヒントを先生方にお話しいただくランチ交流会ですが、本年度、世田谷キャンパスでは、機械システム工学科の関口先生にご登壇頂きました。

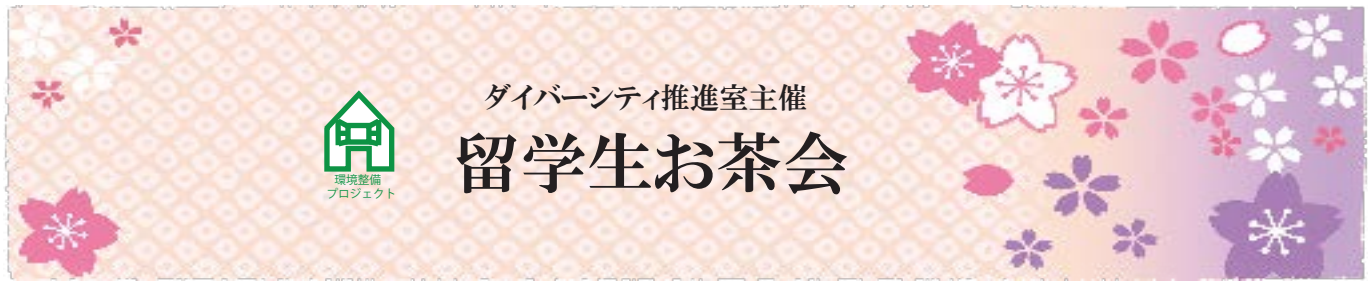
物事に没頭する自分、その自分を客体化して眺める自分、さらにその2者を眺め評価する自分、と様々な視座を持つことで良く生きることができるというお話は、きっと様々な視点から自分の体験を評価すると、「最悪！」と思っていた体験も実は「けっこう面白いかも」と思えるということかな、と想像しながら聞きました。

職業を選ぶにあたっては、自分のできること、やりたいこと、社会的に需要があること、の重なる部分は限られているけれど、学問を修める等により「できること」を拡大させ、いろんな体験を積んで「やりたいこと」（楽しいと思えること）を増やすことで「社会的に需要があること」と重なる部分が増えて選択肢が増える、とのお話でした。学生さん達にとって大変良い指針となったのではないかと思います。

関口先生ご自身は、レオナルド・ダ・ビンチを例に挙げ、万能でありたいと思っておられるそうです。これは、できることを増やすことに通じるのでしょうか。また楽しむことを大切にしている、何事も「楽しむ」という意思をもって取り組んでおられるそうです。何事も「楽しむ」という意思を持って取り組めば、その行為の中に自分にとって望ましい点をたくさん見つけることができそうですね。

今回は7号館2階のプレゼンテーションゾーンでの開催で、25名の学生さんが参加してくれました。お話が終わったのちも何名かは残ってさらに関口先生と意見交換をする姿も見られました。関口先生のお話が彼らの中に響いたことの証と思います。





12月21日（木）、国際寮の和室「和敬庵」にて、留学生を招いてお茶会を開きました。本企画は、茶道を通して日本文化に触れてもらい、さらに座談会で文化交流を行うことを目的として開催したものです。

当日は、環境創生学科2年の李 瑞菁さん（中国）、知能情報工学科3年の金 毅さん（中国）、総合理工学研究科電気化学専攻のハロン ナラシド ヌル フスナさん（マレーシア）、知能情報工学科のケール スミータさん（オーストラリア）、通訳として医用工学科4年の佐々木えみりさんの5名にご参加いただきました。

はじめに、全員が白い靴下に履き替え、白湯を飲んで身体を温めた後、伊東明美室長を先頭に、和室に移動しました。和室では、共通教育部人文・社会科学系 岡山理香先生が「亭主」として迎えてくださり、歓迎のご挨拶をされました。



お客様が揃ったところで、まず懐紙と和菓子が配られました。菊や紅葉など、季節にちなんだ和菓子が目の前に置かれると、「きれい！」と感嘆の声があがりました。懐紙にお菓子を載せて食べるのは難しかったようですが、皆さん器用に召し上がっていました。



つづいて、岡山先生がひとりひとりにお茶を点てて下さいました。留学生の中には初めて抹茶を口にした方もいましたが、みなさん「美味しい」「苦くない」と最後まで味わっていました。また、茶道の歴史や作法の説明にも、大変興味深く聞き入っていました。中盤には、留学生のスミータさんと李さんにも実際にお茶を点ててもらいました。お二人とも落ち着いて、上手にお茶を点てていました。



最後に岡山先生からご挨拶があり、クリスマスのモチーフをかたどった干菓子をお土産に参加者は退室しました。今回のお茶会は「和を楽しむこと」がテーマでした。留学生の皆さんにとっては、初めて経験することばかりでしたが、リラックスした楽しい茶会となりました。

年末のお忙しい中、ご準備頂きました岡山先生、理工学部医用工学科 桃沢先生、国際寮の近藤様、学生支援課 坪井様、大学運営課 森下様、国際支援課の皆様、ご協力いただきありがとうございました。



第二部の座談会の様子はこちらから

[https://www.diversity.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/2024/02/20240209\\_zadankai\\_v2.pdf](https://www.diversity.tcu.ac.jp/wp-content/uploads/2024/02/20240209_zadankai_v2.pdf)



## 次世代育成 Pj.



### セコム株式会社共催「進路選択応援プログラム 2023」を開催しました

2023年12月22日（金）、東京都市大学等々力中学・高等学校にて「進路選択応援プログラム 2023」（セコム株式会社共催）を開催しました。

同イベントは、理系学部への進学を検討している女子中高生を対象に、理系学部を卒業した女性研究者の職場やその活躍の様子を紹介することで自らの将来像を想像してもらい、進路選択の一助とすることを目的としており、同校生徒10名、保護者5名にご参加いただきました。

はじめに、本学ダイバーシティ推進室の伊東室長より日本における理工学部男女比率の現状について説明があり、そして、今年度新設された本学デザイン・データ科学部の山口敦子教授より同学部の紹介がありました。

その後、セコム株式会社より会社紹介があり、企業理念や取り組んでいる事業などについてのお話がありました。続いて同社女性技術者3名による自己紹介および仕事紹介があり、進路選択の理由や今の仕事を選んだ理由、これまでのキャリアについてお話いただき、大変興味深いエピソードを聞くことができました。

最後に、女性技術者がファシリテーターとなり、参加した生徒たちが3グループに分かれて「セコムのリケジョとキャリアイメージ」をテーマにワークショップを行いました。各グループ、緊張しながら自己紹介から始まりましたが、時間が経つにつれて、生徒からも質問が多く飛び交い、笑顔が溢れる賑やかなイベントとなりました。





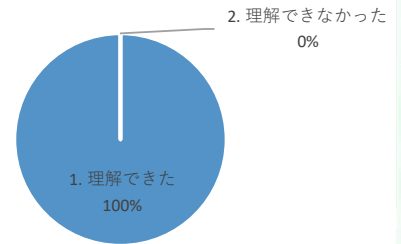
## 2023年度 教職員向け「SOGI への理解を深めるためのチェックリスト」結果報告

- ・実施期間：2023年11月24日（金）～12月11日（月）
- ・対象者：常勤教職員492名
- ・回答率：37%（回答者180名）※但し、内12名は解答選択が不適切なため無効処理

設問1. 「LGBT」「SOGI」の説明について、理解できましたか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 理解できた	168名	100 %	96 %	4
2. 理解できなかった	0名	0 %	0 %	0
3. 未解答	0名	0 %	1 %	▲ 1

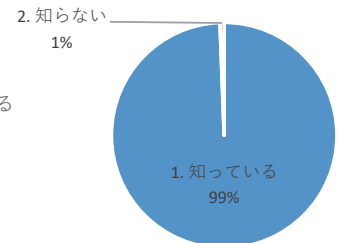
- 1. 理解できた
- 2. 理解できなかった



設問2. 性的マイノリティーについて、（曖昧でも）どのようなことが知っていますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 知っている	167名	99 %	98 %	1
2. 知らない	1名	1 %	2 %	▲ 1

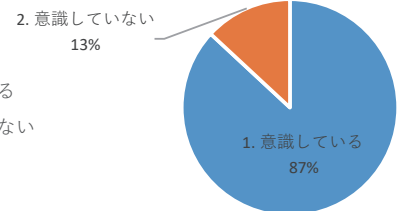
- 1. 知っている
- 2. 知らない



設問3. 性的マイノリティーに該当する人が学内にもいる可能性のあることを普段から意識していますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 意識している	146名	87 %	78 %	9
2. 意識していない	22名	13 %	22 %	▲ 9

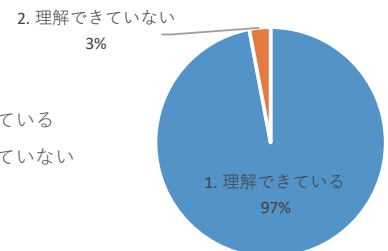
- 1. 意識している
- 2. 意識していない



設問4. 性的マイノリティーの方が、誰にも打ち明けられない思いをもっていることを理解できていますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 理解できている	163名	97 %	96 %	1
2. 理解できていない	5名	3 %	4 %	▲ 1

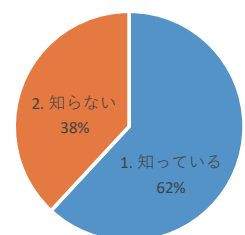
- 1. 理解できている
- 2. 理解できていない



設問5. 性的マイノリティーの方が、カミングアウトする相手として、友人が多いことを知っていますか？

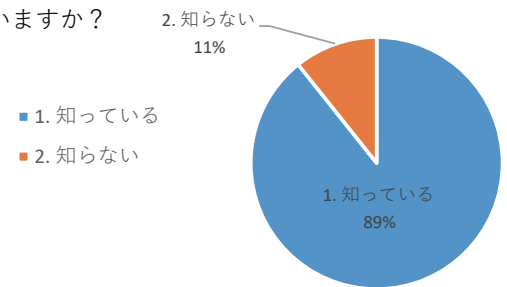
	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 知っている	104名	62 %	53 %	9
2. 知らない	64名	38 %	47 %	▲ 9

- 1. 知っている
- 2. 知らない



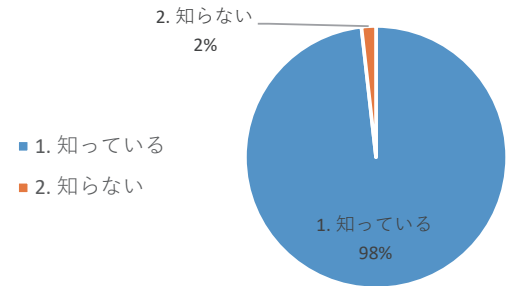
設問6. 性的マイノリティの方が、「いじめ」の対象として選ばれやすいことを知っていますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 知っている	150名	89 %	88 %	1
2. 知らない	18名	11 %	12 %	▲ 1



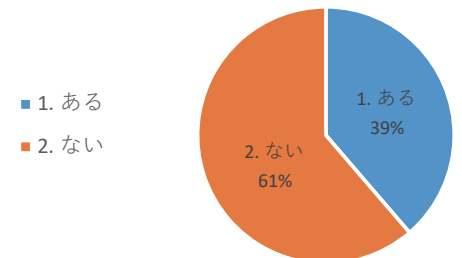
設問7. 性的マイノリティの方の性的指向や性自認を本人の同意なしで第三者に勝手に暴露すること（アウトティング）は、人格権・プライバシー権等を著しく侵害するもので、許されない行為であることを知っていますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 知っている	165名	98 %	96 %	2
2. 知らない	3名	2 %	4 %	▲ 2



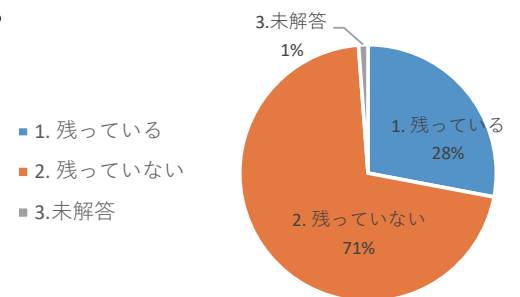
設問8. 過去一年以内に、「男（女）だから」というような断定的で押しつけにつながるような言い方をしたり、聞いたりしたことがありますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. ある	65名	39 %	44 %	▲ 5
2. ない	103名	61 %	55 %	7
3. 未解答	0名	0 %	1 %	▲ 1



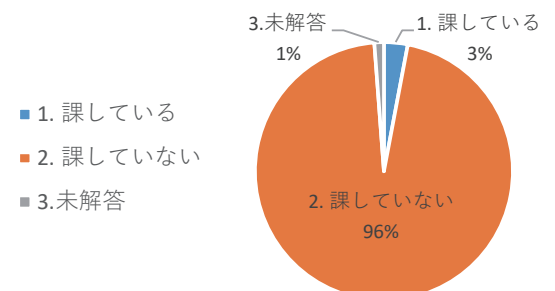
設問9. 学生に記入してもらった書類やアンケート等に「性別欄」が残っていませんか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 残っている	47名	28 %	28 %	0
2. 残っていない	119名	71 %	70 %	1
3. 未解答	2名	1 %	2 %	▲ 1



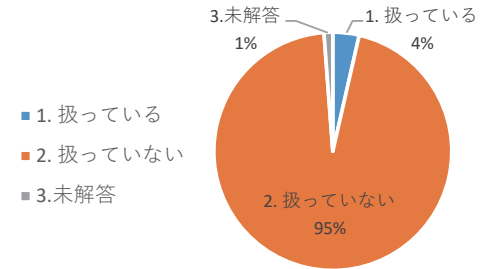
設問10. 授業やセミナー等で、「男女のペアワーク」を課していませんか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	人数	割合		
1. 課している	5名	3 %	2 %	1
2. 課していない	161名	96 %	93 %	3
3. 未解答	2名	1 %	5 %	▲ 4



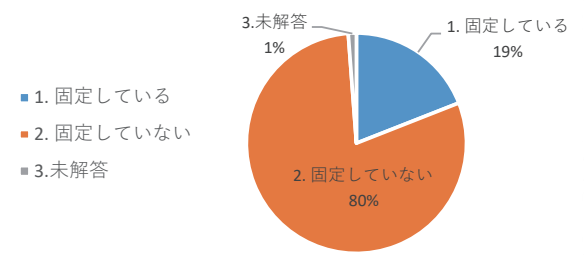
設問11. 授業や業務上のたとえ話で、性的指向に関わる事柄を扱っていませんか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	名	%		
1. 扱っている	6名	4 %	4 %	0
2. 扱っていない	160名	95 %	94 %	1
3.未解答	2名	1 %	2 %	▲ 1



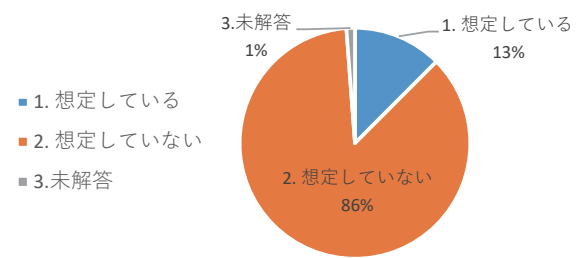
設問12. 「くん」「ちゃん」など、名前の呼び方を性別で固定していませんか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	名	%		
1. 固定している	32名	19 %	32 %	▲ 13
2. 固定していない	134名	80 %	67 %	13
3.未解答	2名	1 %	1 %	0



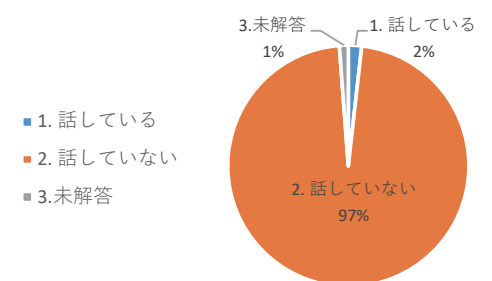
設問13. カップル、あるいは、二人一組という時に、男女のペアだけを想定していませんか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	名	%		
1. 想定している	21名	13 %	21 %	▲ 8
2. 想定していない	145名	86 %	78 %	8
3.未解答	2名	1 %	1 %	0



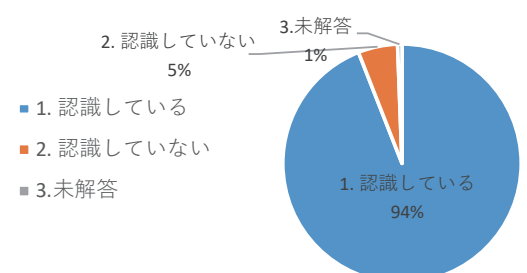
設問14. 相手の属性（学生・教職員）を問わず、適切な配慮なく性的指向に関する事柄を話していませんか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	名	%		
1. 話している	3名	2 %	6 %	▲ 4
2. 話していない	163名	97 %	93 %	4
3.未解答	2名	1 %	1 %	0



設問15. 多目的トイレを性別にかかわらず使用できる「トイレ」として認識していますか？

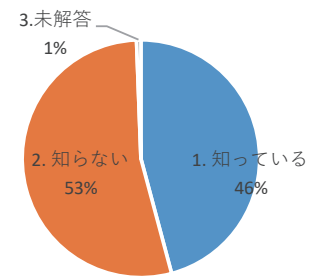
	本年度		前回 (2021年度)	前回比
	名	%		
1. 認識している	158名	94 %	89 %	5
2. 認識していない	9名	5 %	9 %	▲ 4
3.未解答	1名	1 %	2 %	▲ 1



設問16. 集団で実施する健康診断であっても、希望すれば個別に受診できることを知っていますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
1. 知っている	77名	46 %	38 %	8
2. 知らない	90名	53 %	60 %	▲ 7
3. 未解答	1名	1 %	2 %	▲ 1

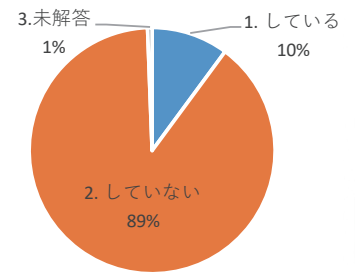
- 1. 知っている
- 2. 知らない
- 3. 未解答



設問17. 飲み会等の懇親の場で、好みの異性のタイプを聞いたりしていませんか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
1. している	17名	10 %	6 %	4
2. していない	150名	89 %	92 %	▲ 3
3. 未解答	1名	1 %	2 %	▲ 1

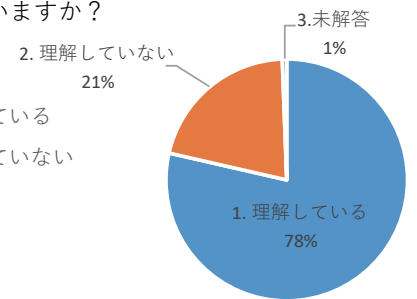
- 1. している
- 2. していない
- 3. 未解答



設問18. 宴会の余興等でふざけて、女装や男装することに傷つく人がいることを理解できていますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
1. 理解している	132名	78 %	74 %	4
2. 理解していない	35名	21 %	25 %	▲ 4
3. 未解答	1名	1 %	1 %	0

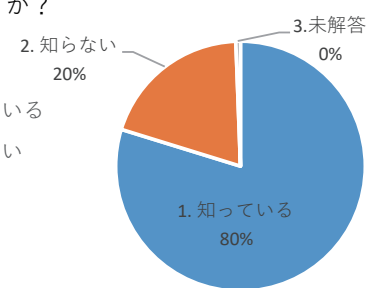
- 1. 理解している
- 2. 理解していない
- 3. 未解答



設問19. 公的な式典等であっても、服装を（戸籍上の）性別で固定する必要はないと知っていますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
1. 知っている	134名	80 %	67 %	13
2. 知らない	33名	20 %	32 %	▲ 12
3. 未解答	1名	0 %	1 %	▲ 1

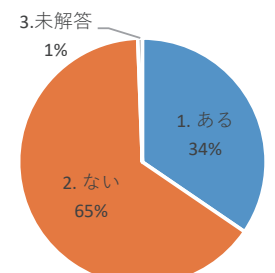
- 1. 知っている
- 2. 知らない
- 3. 未解答



設問20. 人生設計に関するセミナーやテレビのCMなどが異性愛を前提としていることに違和感を覚えたことはありますか？

	本年度		前回 (2021年度)	前回比
1. ある	58名	34 %	32 %	2
2. ない	109名	65 %	66 %	▲ 1
3. 未解答	1名	1 %	2 %	▲ 1

- 1. ある
- 2. ない
- 3. 未解答





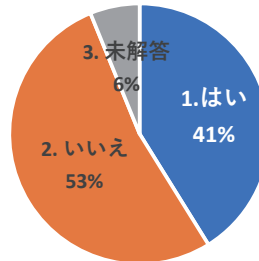


## 2023年度 学生向け「アンコンシャス・バイアスに関するチェックリスト」結果報告

- ・実施期間：2023年10月18日（水）～11月10日（金）
- ・対象者：全学生 8017名
- ・実施方法：Webclass
- ・回答率：8%（回答者：632名）

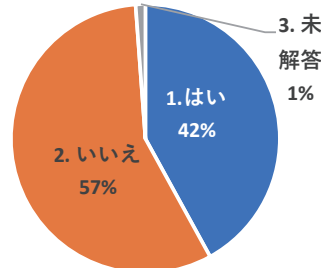
設問1. 「多様性」と聞くと、自分とは異なる価値観や考え方でも「肯定」しなくてはいけないと思う

1. はい	260名	41%
2. いいえ	333名	53%
3. 未解答	39名	6%



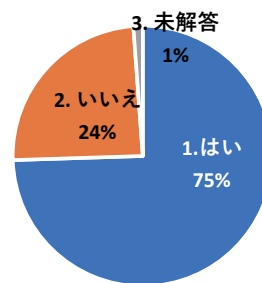
設問2. 「常識」や「当たり前」「ふつう」などの言葉をよく使う

1. はい	252名	42%
2. いいえ	341名	57%
3. 未解答	7名	1%



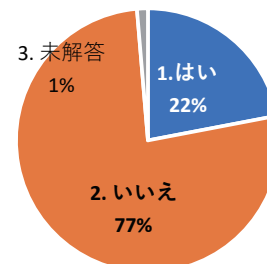
設問3. 「親が単身赴任中」というと、父親を想像する

1. はい	447名	75%
2. いいえ	146名	24%
3. 未解答	7名	1%



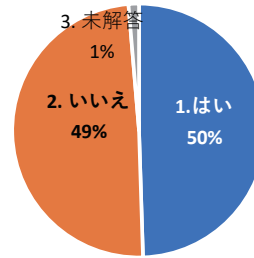
設問4. 女性は気配りが上手なので、サポート業務に向いていると思う

1. はい	132名	22%
2. いいえ	460名	77%
3. 未解答	8名	1%



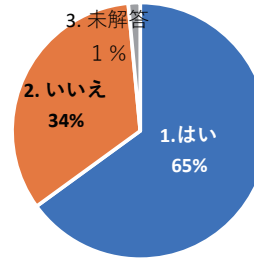
設問5. DV（ドメスティック・バイオレンス）と聞くと男性の行う暴力のことだと思う

1. はい	297名	50%
2. いいえ	295名	49%
3. 未解答	8名	1%



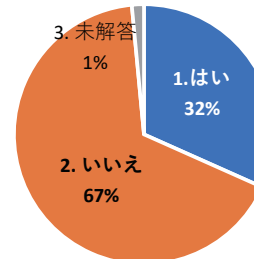
設問6. 受付対応、保育士、看護師というと、女性を思い浮かべる

1. はい	390名	65%
2. いいえ	201名	34%
3. 未解答	9名	1%



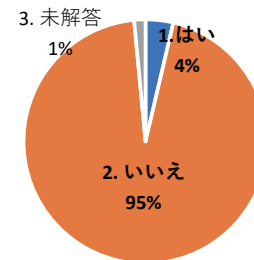
設問7. LGBT の人は特殊な存在だと思う

1. はい	190名	32%
2. いいえ	401名	67%
3. 未解答	9名	1%



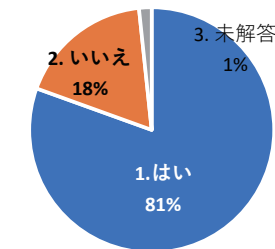
設問8. LGBT の人は普通の大学にはいないと思う

1. はい	22名	4%
2. いいえ	569名	95%
3. 未解答	9名	1%



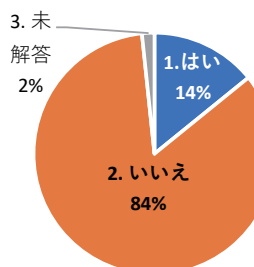
設問9. 体力が必要な仕事には男性が配属されると思う

1. はい	483名	81%
2. いいえ	107名	18%
3. 未解答	10名	1%



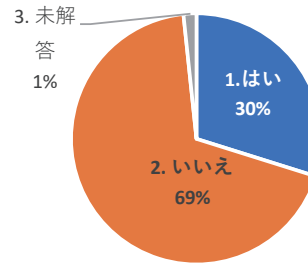
設問10. リーダーや管理職になりたい女性は少ないと思う

1. はい	85名	14%
2. いいえ	505名	84%
3. 未解答	10名	2%



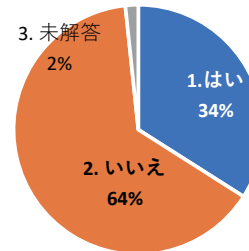
設問11. 育児や介護は、女性のほうが向いていると思う

1.はい	179名	30%
2.いいえ	411名	69%
3.未解答	10名	1%



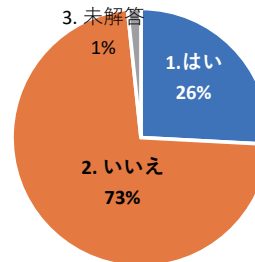
設問12. パートタイマーは、主婦が家計補助のために働くことだと思う

1.はい	204名	34%
2.いいえ	386名	64%
3.未解答	10名	2%



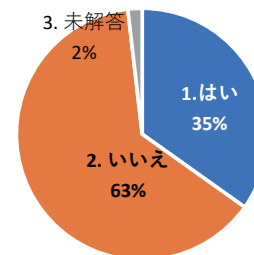
設問13. 非正規雇用で働く人は、自ら望んで、その働き方を選択していると思う

1.はい	155名	26%
2.いいえ	435名	73%
3.未解答	10名	1%



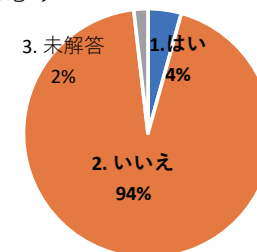
設問14. 障がいのある人は、簡単な仕事しかできない、あるいは働くのが難しいと思う

1.はい	209名	35%
2.いいえ	380名	63%
3.未解答	11名	2%



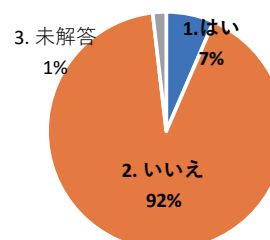
設問15. 教員が帰るまで学生が研究室にいるのは当然だと思う

1.はい	26名	4%
2.いいえ	563名	94%
3.未解答	11名	2%



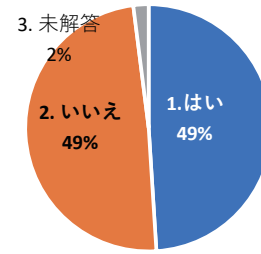
設問16. 学生は教員に反論してはいけないと思う

1.はい	39名	7%
2.いいえ	550名	92%
3.未解答	11名	1%



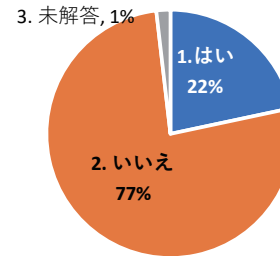
設問17.発達障がいのある学生も努力すれば他の学生と同じようにできると思う

1.はい	294名	49%
2.いいえ	294名	49%
3.未解答	12名	2%



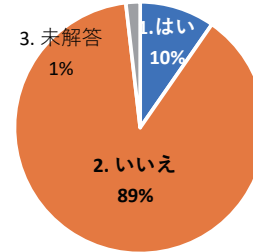
設問18. 勉強が分からない学生は努力が足りないだけだと思う

1.はい	130名	22%
2.いいえ	459名	77%
3.未解答	11名	1%



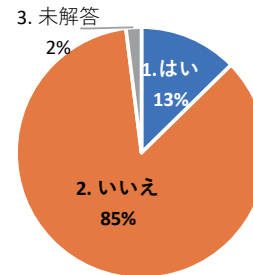
設問19. 男子学生に比べ、女子学生への負担を減らすのは当然だと思う

1.はい	58名	10%
2.いいえ	531名	89%
3.未解答	11名	1%



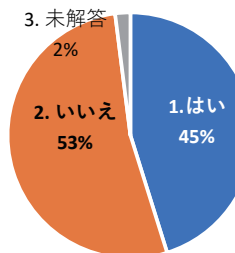
設問20. 雑用や懇談会等の幹事は「下級生の仕事」だと思う

1.はい	76名	13%
2.いいえ	512名	85%
3.未解答	12名	2%



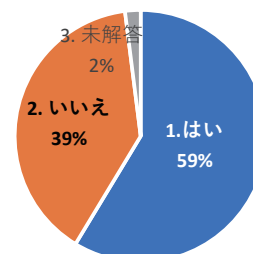
設問21. 年配（高齢者）の人は頭が堅く、多様な働き方への理解がないと思う

1.はい	271名	45%
2.いいえ	317名	53%
3.未解答	12名	2%



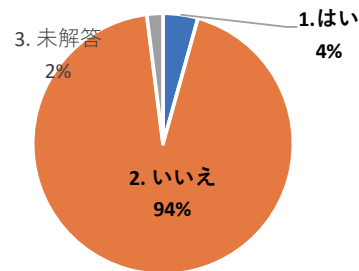
設問22. 年配（高齢者）の人はITに関する知識や流行に疎いと思う

1.はい	352名	59%
2.いいえ	236名	39%
3.未解答	12名	2%



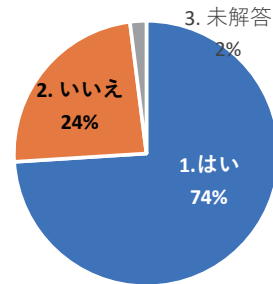
設問23. 病気治療しながら通学している人を見ると、大学をやめて治療に専念したほうがいいのかと思う

1. はい	26名	4%
2. いいえ	562名	94%
3. 未解答	12名	2%



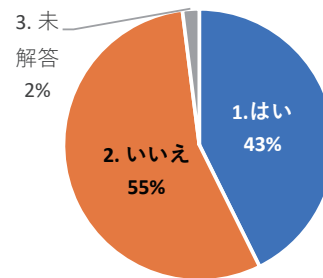
設問24. 介護しながら通学するのは難しいと思う

1. はい	444名	74%
2. いいえ	144名	24%
3. 未解答	12名	2%



設問25. 留学生や外国人が日本の文化に合わせて生活するのは難しいと思う

1. はい	256名	43%
2. いいえ	332名	55%
3. 未解答	12名	2%



## Topics

### 2024年度「ダイバーシティ用語カレンダー」を作成しました！

昨年度に引き続き、ダイバーシティに関する用語を掲載した4月始まりのカレンダーを作成しました。今年度につきましても本学の学年暦を記載しておりますので、ぜひ多くの皆様にご利用いただければ幸いです。すでに教職員の皆様にはお届けしておりますが、追加配付用のものがございますので、ご希望がございましたら当室までご連絡ください。





「窓」は不定期連載のコラム欄です。窓を開けて風通しを良くしたいという思いから「窓」と名付けました。ダイバーシティに対する思い、ダイバーシティに対する期待等、皆さまからのご投稿をお待ちしております。推進室ではダイバーシティ関連の書物や学外のフォーラム、他大学の取組みなど、幅広く情報収集しておりますので、これらの情報はこちらにてご紹介してまいります。



## ある日の横浜キャンパス学生食堂



本学の課外活動団体の中枢を担う学生団体連合会（以下、学団連）という団体があります。学団連の活動は課外活動団体全体、大学、大学行事との連携、独自の企画立案など多岐にわたっています。横浜キャンパスには学生団体連合会横浜分室があり、学団連としての活動の他、地域との連携という横浜キャンパスならではの活動が1年を通じて行われています。

先日、2時限目が始まった頃、横浜分室員（以下、分室員）に先導されたお子さん、大人たち20名超がキャンパスに入構。キャンパスから5分ほど離れた子育て支援施設の利用者、スタッフの訪問でした。学生食堂（以下、学食）に準備をした席では、ちびっこの鳴き声、笑い声の中、にぎやかに食事を摂る一方で、分室員が学食の利用について説明をしながら交流をしていました。

この企画は、昨年末、分室員と施設がコンタクトをとったことがきっかけで、コロナ前には学食を利用されていた地域の方々が、コロナ時代に突入し、一般の利用が途絶え、その後、“学食は利用できるの？利用していいの？どうやって利用するの？”であれば、横浜分室が案内します、というところから実現しました。横浜キャンパスの学食は、11時の営業開始から2時限目終了までは比較的席にも余裕があること、土曜日は利用者も激減するため地域からの利用は推奨したいのですが、学外者から見て、キャンパスに入構し、利用するまでの一歩が難しいという気づきがありました。

地域との活動はダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンにも通じるように見受けられます。コロナ以降、課外活動は厳しい活動制限を受け、乗り越え、その時できること、資源を活用し活動を続け、オンライン、ハイブリッド、完全対面と毎年変わる活動形態に順応してきました。その様子を見てみると、彼らは学内外、多種多様な人々と関わり、いくつかの窓を開け、風を通し、自ら楽しみ、ネットワークを築いてきたのでしょうか。窓の数ではなく、窓に向き合う創意工夫と姿勢なのだと、彼らの活動から学ぶことの多い数年でした。

利用される方々の席を準備する際、近くに座っていた4人グループの学生さんに、“お子さんの声がにぎやかになるけれど大丈夫ですか？”と声をかけたところ、“大丈夫です、むしろ僕たちが邪魔ですか？”と。保全林から冬晴れの木漏れ日が注がれる学食で、突然起こる多様性を受け入れてくれた素敵な学生さんとの出会った学生食堂でした。

（投稿者：学生支援課・金谷朗子）





## 生活にとけ込んだあたりまえの思いやり

本学に着任する以前はマレーシアの国立大学で教員をしていました。マレーシアは多民族国家として知られ、人口のおおよそ7割がマレー系、2割が中華系、1割がインド系とその他で構成されており、教室にいる学生達の顔を見渡すと、確かにそのような割合でした。

日本では一般的に「盆暮れ正月」が帰郷して大切な家族と過ごす時期ですが、マレーシアにはそれが3民族あり、外国人の私にとってはやたらと多い祝日を満喫していました（その代わり1月1日を祝う慣習はなく、日本の元旦は平日として普通に授業をしていました）。民族、宗教、価値観、食べ物や生活習慣などが異なる人々が混ざり合い、同じマレーシア人として学び、働き、国を支えていく。クラスの学生達もお互いを理解し、尊重しながら、小さい頃から染みついている「付かず離れず」の絶妙なバランスで日々の大学生活を送っているように私には見えました。それぞれの大事なものやことを慮り、自分だったらどう思う？どうされたら心地よい？と想像を働かせながら自分事のように捉えて自然に接してあげる。ダイバーシティが大事なのである！などとは殊更に言わず、お互いへの思いやりが生活に溶け込んでいる、そんな国で私は、やはり付かず離れずのマレーシア人の同僚や学生達の優しさに助けられながら気づけば10年近くお世話になってしまいました。

翻って、海外からの留学生以外は（ほぼ）全員が日本人である同じ民族、という都市大の中でダイバーシティを肌で感じる機会はそう多くはありません。そのため特に宗教的なこととなると想像することが難しく、必要以上に身構えてしまうこともあると思います。ただ、こちらが分からないことくらいは彼らも分かっています。何が必要で何が不要か、はっきりと聞いてあげて、さらに準備してあげるのがよいかなと思います。豪華な施設やラウンジのようなスペースなど、全く必要ありません。我々の日常生活にフツと溶け込むような優しい配慮や空間を用意してあげられる、そんな大学であつたら素敵だなと思います。

（投稿者：都市生活学部・斉藤）



### コラム「窓」へのご投稿はこちらから！

皆さまからのご投稿をお待ちしております。  
ぜひ下記リンクよりご投稿ください。

<https://forms.gle/NfRCLbn7WNR5eBg38>



### ご意見はこちらから！

ご意見窓口フォームを開設いたしました。

ダイバーシティに関するご意見をお気軽にお寄せください。

<https://forms.gle/eUxx6XdtYQS3mKhCA>